発行所
三池炭鉱労働組合
大牟田市不知火町2
電話3033番 7140番
編集兼発行人 北岡 隆

酷暑の折からお互いに気をゆるめず、体には十分気をづけましょう。

平和と民主主義を目指し 労働者の前進誓う

総評第十五回定期大会終る

総評第十五回定期大会は、結成十周年を迎え、外国代表二十数名が参加してひらかれた。大会は安保闘争の成果に立ち、この十年間の歩みの上に、さらに労働者の前進を誓い合った。

大会は七月三十一日から東京九段会館に五十七組合の代議員、特別代議員、傍聴者千三百名をあつめてひらかれた。

ことしは総評結成十周年に当り、日本の労働運動と民主主義と平和をめざして闘つてきた総評のたゆまざる前進が、諸外国十四カ国二十五名の代表も出席した。

第一日目は午前十時四十五分、門間副議長の挨拶で開会した。

大会議長団に国鉄吉田委員長、自治労栗山委員長、鉄鋼西口委員長私鉄明田関西地連委員長、全司法佐藤委員長の五氏を選出した。

このあと、会場に諸外国の代表が世界労連を先頭にソ連、中国、フランス、イタリーと入場、全員起立拍手で代表を迎え入れた。

太田総評議長の挨拶につづき社会党浅沼委員長、共産党野坂議長、中立労連代表柳沢氏、新産別相原組織部長、全日農野溝会長からメッセージがおくられ、つづいて外国代表として世界労連のジョージ・パンノート氏、全ソ労評ブルガス・アレキサンドル・エツチ氏、中国総工会主席りゆう寧一氏からそれぞれメッセージが贈られ、総評の果した役割を讃えこんごの発展を願うとともに、三池の仲間を激励、世界の労働者が団結して平和をかちとることが呼びかけられた。

内外代表のメッセージのあと、岩井事務局長から一般経過報告、太田議長から運動方針が提案された。大会二日目、冒頭全鉱原口委員長から「三池闘争斡旋について、中労委へ要望決議」の提案がなされた。この提案は全鉱、全逓、福岡総評の共同提案によるもので「本大会に結集したわれわれは日本労働者階級を代表して、いま重大な段階にある三池闘争に関し、つぎの諸点を指摘し、中労委の良識ある公正な斡旋を要望するとともに、三池闘争の将来について重大な決意と態勢をもつて見守るものである。

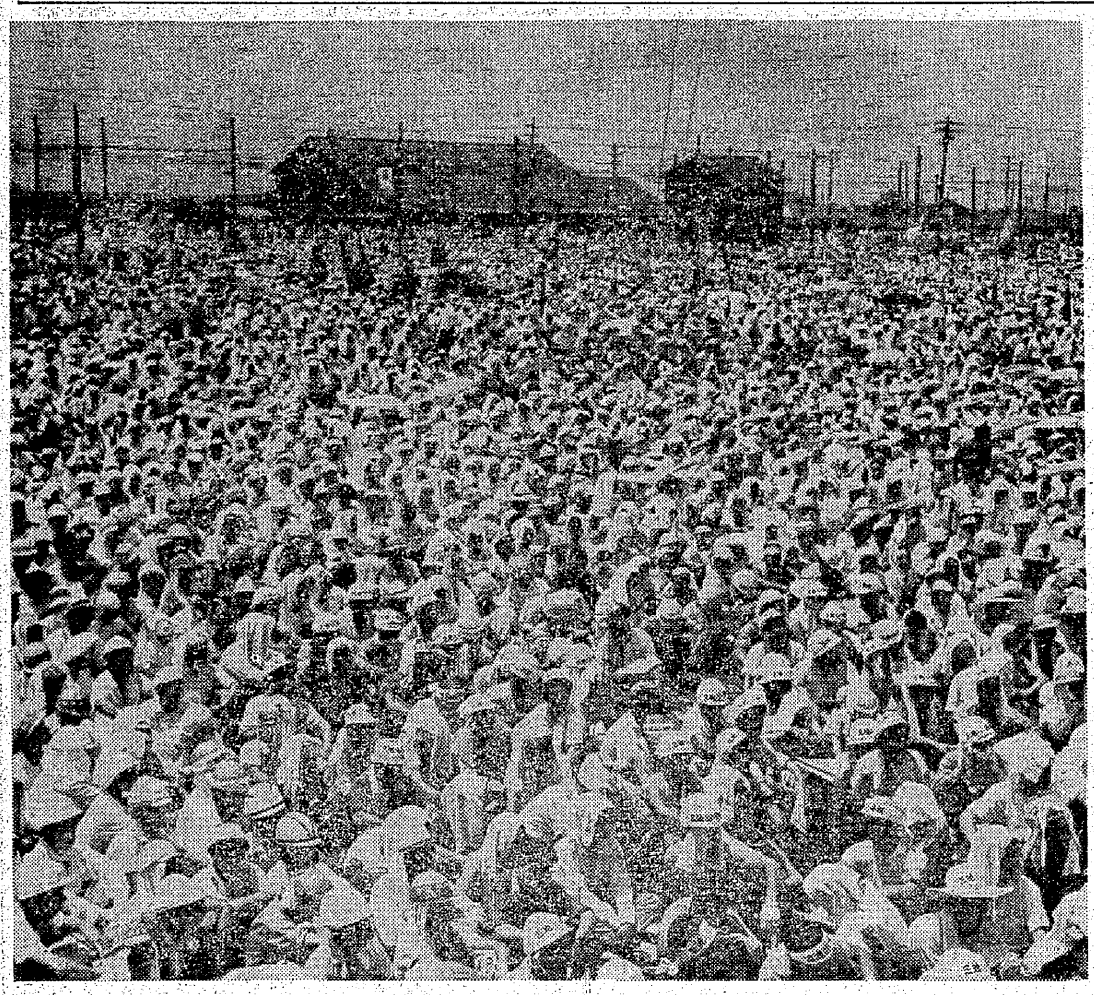
(1) 会社の真の意図は組織破壊にある。中労委はこのことを明らかにし、労働者を不当労働行為から守り、いささかも労働基本権を侵すことのないよう斡旋を出すこと。

(2) 指名解雇は失業と死を意味し、いかなる理由があつてもそれは罪悪である。労資関係の近代化の立場からも、これは絶対認められぬ。

(3) 組合は先に三原則を提示した。それは労働組合にとつて最大の譲歩であり、この組合側の真意を十分くみとり斡旋すること」

以上の主旨の提案がなされ、満場一致で決定された。

なお、この決定により代表十七名が中労委に出向き、この申入れ書を手交した。



闘いはここから闘いは今から！

（写真は十万人の大集会から）

安保の教訓を学べ

在京オルグ団も挨拶

このあと、在京中の四十人のオルグ団が壇に上り、代表として原委員長が「総評を中心とする日本の労働者の代表の皆さんに心からお礼の挨拶を申上げます」と三池闘争に寄せられた共闘支援の挨拶と決意を力をこめて述べた。

一般経過報告に対する質疑応答は二日目午後から行なわれた。質問意見の中心はほとんど安保闘争で果した総評の役割りと三池闘争にそそがれた。

とくに三池闘争については動員に対する問題なども出され、また全金属から「もし大牟田の臨時大会で決定されたような、統一行動がさらに三池の闘争をつつんで行くならば、もう一段と有利になつたのではないか」と意見が述べられた。

運動方針に対する質疑は三日目に行なわれた。

「安保、三池の闘いを支えて発展させてきた力が原案にいう国民的結集の力である。この力をこんどどう発展させて行くのか」（自治労）

「安保闘争の評価をもつと徹底的に行うべきである」（国鉄）

「二百日に及ぶ三池の闘争が偉大な発展をしてきた力は、もちろん三池の労働者の不屈の闘魂によるものだが、それを支えた安保阻止の統一戦線がしつかり支えておつたことは無視できない」（国鉄）

「特定政党の支持をするのは妥当であるかどうか」（日教組）

「第二組合は絶対つくらせてはならないが、できた以上はそれを増やさないようにしなければならない。闘争が終つたら会社は必ず挑発行為をとるので、十分配慮しながら前進の態勢を崩さなく闘かおう。問題になつた職場闘争のほんとうの姿をまず炭労の仲間に十分理解してもらうとともに、会社との交渉は逐一メモし挑発をしりぞけ、できるだけ第二組合員の復帰に努力してもらいたい」（紙パ）

「全国民的に盛り上がろうとしているたくさんの国民的な要求、それを中心に集まつている組織をもつと有機的に結びつけることが今日もつとも必要である」（自治労）

「日本の労働者階級の要求の解決中で文字通り「支柱」としての役割を果しえたことに大きな誇りと自信をもつことができる。総評三百五十万の労働者は、今この闘いを正しく総括した。

いうまでもなく現在、安保改定によつて、日本の平和と独立が厳しい危機におちいり、民主主義が重大な試練に立たされようとしている。

そしてこの日本の事態は単に日本の問題にとどまらず国際情勢の推移と密接な関係にたつものであり、帝国主義勢力に対する直接的な影響をもつものである。それだけに日本の労働者階級なかんずく総評の任務は重大である。

われわれは池田内閣のとりあえずの低姿勢に対して幻惑されてはならない。

大会宣言

安保闘争の偉大な成果と三池闘争の発展という画期的な闘いをうけついで、われわれはここに第十五回定期大会をひらいた。

われわれのこの一年間における闘いは労働者大衆のつよい連帯性と階級意識の高揚にささえられたものであり、日本労働運動史上銘記されるべきものであつた。ことに三池闘争における統一と団結は資本家のあくなき分裂攻撃に対する最大の抵抗を示し、さらに全国二千にのぼる安保共闘は日本の平和と民主主義と独立を守る勢力が健全であることを示すこととなつた。

われわれは、この重要な闘いの前進は、安保闘争に示された方向をしつかり堅持して行くなら必ず闘いとられるという教訓を今次闘争に学ぶべきである」（国鉄）

社会党支持を決定

企業から独立した組合

「セツ[illegible]と平和を守るために組織をつよめ、組合運営を改善しよう」では、労働者の基礎教育を徹底し、教宣活動を改善、企業から独立した労働組合をつくろう、未組織労働者を組織し、失業者の状態を回復しようなどを決定した。

「主要闘争の目標」では(1)生活向上のたたかい(2)合理化反対、労働災害防止、時間短縮、完全雇用の闘い(3)平和と独立、民主主義の闘いを目標に原案では作製されている。

○全鉱…労働組合の家族に対する取くみが非常に遅れている。家族の組織、婦人の組織を積極的に取上げて実のあるものにしてほしい

○全国金属…低賃金問題を掘下げていなくして、男女間の格差、臨時工・本工の格差、あるいは企業間の格差を中心に賃上げ問題をとらえている。この点の誤りを全面的に是正しない限り、賃上げ闘争の統一行動は前進しないと思う。

また、賃上げ闘争と同時に最低賃金を十分検討し改めていただきたい。

○炭労…重税に対する反対、税金を安くする減税闘争が方針書に出ていない。これを入れるべきだ。それから社会保障の闘いの中で軍事費を削減しろという要求が出ていないのはどうしたことか。

統一戦線の強化だが、安保闘争では総評が明らかに中心勢力になつたが社会、共産党ときれいに共闘を結んだ。これをわれわれは失いたくない。さらに進め強める必要があると思う。

運動方針を決定

三池闘争の斡旋で千二百名の解雇等という鉄ツイが来たときは、断固立上つて闘うという意思統一、理解がなされなければならないのではなかろうか。その点で皆さんにご理解を願いたい。

さいごに一つの企業体、産別労働組合の中で、全体として支援できないような、孤立されたように見える闘いがある。だが、正しい闘争であれば、日本の最高権威である総評は、労働者の政治のために制打破の闘いとかたく結合して闘争を発展させることを確認した。

そのためには労働者教育の充実、共済制度の整備、産業別組織の確立、未組織労働者の組織化等々を通じ企業から独立した真に闘える組織の確立をはかりつつ、この情勢にかみあつた労働運動の体質改善をかちとらねばならない。

われわれは、これらの努力を通じてわれわれの主導権で国会解散をかちとり、総選挙闘争を勝利させ、憲法を守る平和、中立、民主主義の政府の樹立をはかるため、さらに全労働者階級の前進をたたかいとることを確認し、右宣言する。

一九六〇年八月三日

日本労働組合総評議会
第十五回定期大会

安保改定の共犯者である池田首相が如何に日本国民の目を欺瞞してもそれはしよせんごまかしであることはいうまでもない。

われわれは安保闘争の中で、きずきあげてきた統一行動を継続して発展させ、池田内閣に対する攻撃の闘いをさらに強化推進しなければならない。

この闘いの中で、われわれの力量をさらに強め、つねに勝利を保障しうる労働者階級の統一と団結を実現する必要がある。

われわれは、この大会において討議された大幅賃上げ、全国一律八千円の最低賃金制獲得、社会保障の確立、合理化反対、時間短縮という職場の強い要求の闘いを組織し、これを池田内閣反対、治安立法阻止、不当弾圧反対、安保体立上ることが沢山ある。そういうことをここに出して頂きたいと思います。そうでないと闘争は孤立化に陥つてしまうのではないかと思う。

などの質問、意見が出され、政党支持及び統一戦線問題、安保闘争の評価と、こんごの国際労働戦線などに集中した。

とくに政党との協力関係については全金属、紙パ、日教組から原案に対する修正案「社会党支持一本やりではなく、革新政党と協力する」という提案があつたが、討論採決の結果、原案どうり「政治闘争を強化するために当面とりうる最善の方法として(1)日本社会党を支持する(2)個々の問題に応じて革新政党と協力する」ことに決定した。

また、運動方針については各単産から出された九件の修正案について、その大部分は執行部がその意を組んで原案を修正提案して、満場多数で決定した。

新予算を決定

規約改正では事務局次長一名増員（二人制）などを決定、予算では現行のカンパを繰入れて組合費を倍額する新年度予算案、および決算報告を承認した。

このあと、下うけダム官庁不当弾圧反対、全港湾神戸海陸支部に対する不当弾圧反対闘争、松川、白鳥、平事件公判闘争支援、中小企業争議団支援などの決議案を、いずれも満場一致で決定した。

午後は役員改選に入り、役員選挙のあと大会宣言を発して、意義ある大会を終つた。

新役員つぎの通り

議長太田薫（合化）副議長今村彰（日教組）兼田富太郎（全港湾）門間吉信（国労）野口一馬（炭労）大出俊（全逓）事務局長岩井章（国労）事務局次長えび谷武弘（炭労）小川照男（電産）

太田議長の議長就任は、各界から注目され、とくに三池闘争に関して責任とつてやめるのだという、ためにするための悪質なデマまでとばされていたが、最終的には辞意の撤回がなされたことは、幹部の完全な意志統一がかちとられたことを物語つた。